資料1

公立大学法人首都大学東京 第二期中期計画（案）に関する第5回公立大学分科会の意見と対応一覧

組織等	No.	項目	中期計画（案）	意見等	法人対応方針・回答	頁
全体	1			第一期中期計画と比較して第二期中期計画において力点を置いてる部分、強調している部分はどこなのか。もう少しメリハリをつけた見せ方、表現の工夫が欲しい。	【原案のとおり】 ６年間の計画期間の中で、どの時期に力を入れて取組むかについて、年度計画の中でメリハリをつけた対応を行う。	
	2			文末が「～していく。」「～する。」など統一されていない。ある程度の整理が必要ではないか。	【原案のとおり】 取組みの方向性を指し示し、その内容を今後より具体化していくものについては、文末を「～していく。」と表現し、取組内容等が具体的に決まっているものについては、「～する」と表現している。	
基本認識	3	基本認識	こうした中で、我が法人には、グローバル化する２１世紀の知識基盤社会の成熟化に向けて、首都東京をフィールドとしながら、国際的通用性のある質の高い教育により、社会全体を支え、先導していく「２１世紀型市民」を幅広く育成し、社会の持続的発展につなげていくことが期待されている。	中教審答申（H17.1.28）から引用した「２１世紀型市民」について、法人としてどのように捉えているのか。 敢えて中期計画の中にこの単語を用いる必要はないのではないか。	【原案のとおり】 中教審の『我が国の高等教育の将来像』答申（平成１７年１月）によると、２１世紀型市民とは、「専攻分野についての専門性だけでなく、幅広い教養を身に付け、高い公共性・倫理性を保持しつつ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、あるいは社会を改善していく資質を有する」とされている。 公立大学である首都大学東京の使命は、「大都市における人間社会の理想像の追求」であり、その実現に向けて、都市教養プログラムを中心に幅広い教養と深い専門の学術を学び、大都市の課題解決に貢献し、人間社会の向上・発展に寄与することを目指している。 国の方針にも方向性が合致するため、その方針も踏まえながら、教育等を行っていく。	1
首都大		1 教育に関する目標 (1)教育の内容等 ◇教育課程・教育方法 【総合的な「学士課程教育」の実践】	＜学士課程教育と大学院の連携＞ ⑤ 「２１世紀型市民」を幅広く育成するとともに、高度専門職業人や高度な研究者等も数多く輩出していくため、学士課程から大学院博士前期・後期課程、専門職学位課程への有機的な接続を図りながら、順次性のある体系的な教育課程を構築していく。			3
	4	1 教育に関する目標 (1)教育の内容等 ◇教育課程・教育方法 【大学院教育】	＜教育研究目的・方針の明確化＞ ① 大学院教育においては、２１世紀社会を切り拓く、国際性豊かで、高度な専門性と幅広い知識を有する人材や高度な学術研究を推進する人材等を養成するため、研究科又は専攻・学域ごとに、その特性を踏まえた教育研究上の目的、学位授与の方針等を明確化し、実効性の高い教育課程の編成・実施に努めていく。 ＜高度専門職業人の養成＞ ② 国内外の各界第一線で活躍できる人材を輩出できるよう、社会的要請を踏まえた実践的なカリキュラムを工夫するなど、高度な専門知識・技法と幅広く、深みのある教養を兼ね備えた高度専門職業人を養成する。また、既に社会で活躍している高度専門職業人の学び直しの要請にも応えられるよう、リカレント教育にも寄与していく。	修士課程と博士課程それぞれの教育目標をどのように設定しているのかが不明確であり、どのような大学院を目指すのか明確にさせるべきではないか。 また、高度専門職業人の育成に関する目標についても、「国内外の各界第一線で活躍できる人材を輩出」では不十分ではないか。	【原案のとおり】 現在、首都大では「教育改革ＰＴ」を設置し、学士課程教育のあり方について検討している。 この議論を踏まえて、修士課程及び博士課程についても順次検討を進めていく中で明確化していく予定である。	3
	5	1 教育に関する目標 (1)教育の内容等 ◇教育課程・教育方法 【国際化】	＜国際性豊かな人材の育成＞ ① 国際センター機能を一層高め、国際化に係る基本構想・戦略を明確にしながら、全学を挙げた留学支援・留学生支援、各部門における海外の大学・都市等との教育研究協力の機会の拡大など、国際性豊かな人材の育成環境を整備していく。	第二期中期計画期間中の取組にも関わらず「国際化に係る基本構想・戦略を明確にしながら」では取組として遅過ぎるのではないか。	**【修正】** ＜国際性豊かな人材の育成＞ ① 国際センター機能を一層高め、早期に国際化に係る基本構想・戦略を確立し、全学を挙げた留学支援・留学生支援、各部門における海外の大学・都市等との教育研究協力の機会の拡大など、国際性豊かな人材の育成環境を整備していく。	3
	6	2 研究に関する目標 (2)研究の実施体制等	＜競争的資金の獲得と研究費の効果的な配分＞ ③ 公立の総合大学として、学術研究の動向や社会ニーズの変化等を的確にとらえ、基礎的・基盤的な研究課題をはじめ、先駆的・政策的な研究課題にも果敢に取り組んでいく。そのため、基本研究費と傾斜的研究費に係る財源配分の最適化を図るとともに、研究インセンティブが一層高まるよう、競争的研究費配分ルールも確立していく。	「確立していく」の目的語が「競争的研究費配分ルール」となっているため、競争的研究費の「配分ルール」がまだ定まっていないかのような印象を受ける。	**【修正】** ＜競争的資金の獲得と研究費の効果的な配分＞ ③ 公立の総合大学として、学術研究の動向や社会ニーズの変化等を的確にとらえ、基礎的・基盤的な研究課題をはじめ、先駆的・政策的な研究課題にも果敢に取り組んでいく。 そのため、基本研究費と傾斜的研究費に係る財源配分の最適化を図るとともに、競争的研究費配分ルールについて、研究インセンティブが一層高まるよう整備していく。	7

資料1

公立大学法人首都大学東京 第二期中期計画（案）に関する第5回公立大学分科会の意見と対応一覧

組織等	No.	項目	中期計画（案）	意見等	法人対応方針・回答	頁
首都大	7	2 研究に関する目標 (2)研究の実施体制等	＜競争的資金の獲得と研究費の効果的な配分＞ ④　各教員が、科学研究費補助金をはじめ、様々な外部資金の獲得に向けて積極的に取り組めるよう、組織を挙げて必要な情報収集・提供、手続面での支援を行う。	外部資金の獲得については、研究における競争的資金の獲得に関する項目と、「Ⅳ 財務運営の改善」における外部資金獲得に関する項目と両者に記載されているが、「Ⅳ 財務運営の改善」に記載した方が収まりがよいのではないか。	【原案のとおり】 研究における外部資金獲得に関する項目は「首都大」の研究の活性化・高度化を目的とした計画であり、財務運営の改善における外部資金獲得に関する項目は「法人」の安定的な財務運営を目的とした計画である。それぞれ記載して着実な実施に繋げる。	7
	8	2 研究に関する目標 (2)研究の実施体制等	＜情報学領域の体系化＞ ⑥　本学における基盤的・学際的研究分野として、情報学領域に属する様々な学問分野を体系的に整理するとともに、学内ＩＣＴ環境を整備し、様々な分野の教育研究活動の高度化を効果的に支えていく。	（2）研究実施体制等の計画の中で、この項目のみが具体的に記載されており、唐突な印象を受ける。 6p.＜「世界の頂点」となり得る研究成果の育成＞③のいう「新たな学術領域」のひとつに位置づけるなどにした方が良いのではないか。	【修正】 ＜研究活動の高度化の支援＞ ⑥　学内ＩＣＴ環境を整備し、情報学領域に属する様々な学問分野における教育研究活動の高度化を効果的に支えていく。	7
高専	9	1 教育に関する目標 (1)教育の実施体制 ◇入学者選抜	＜多様な学生の確保＞ ①　性別や年齢、職業の有無、住所地、国籍に関わりなく、多様な学生を受け入れるための取組を推進する。	文頭に「性別」と記載されていることに違和感を覚える。これまで性別で差別していたかのように解釈される恐れもあり、多様な学生を一層確保する、というニュアンスを強めた方が良いのではないか。	【修正】 ＜多様な学生の確保＞ ①　ものづくりに意欲的に取り組む多様な学生を一層受け入れるための取組を推進する。	10
法人	10	1 組織運営の改善に関する目標 ◇教員人事	＜教員定数配分の適正化＞ ②　教員定数配分を踏まえつつ、将来を見据えた学術研究基盤の整備、教育研究の高度化等の様々な要請に的確に応えられるよう、教員定数配分を適時適切に見直していく。	「教員定数配分を踏まえつつ、…教員定数配分を適時適切に見直していく」では文意が不明瞭であり、文章表現を再考されたい。	【修正】 ＜教員定数配分の適正化＞ ②　~~教員定数配分を踏まえつつ、~~将来を見据えた学術研究基盤の整備、教育研究の高度化等の様々な要請に的確に応えられるよう、教員定数配分を適時適切に見直していく。	13
	11	1 組織運営の改善に関する目標 ◇職員人事	＜有為な人材の確保＞ ②　組織運営のコアとなる質の高い固有職員を確実に確保するため、採用方法・採用区分・広報・専門人材の確保等について、時機を失することなく、適切に対応していく。	「専門人材の確保」については、「採用方法・採用区分・広報」と次元が異なっているのではないか。	【修正】 ＜有為な人材の確保＞ ②　組織運営のコアとなる質の高い固有職員を確実に確保するため、採用方法・採用区分・広報等の見直しや、専門人材の確保等について、時機を失することなく、適切に対応していく。	13
	12	2 業務執行の効率化に関する目標	＜業務改善の推進＞ ②　事務職員の「プロ職員」化を着実に図っていくとともに、業務全般の棚卸しを進め、契約事務や会計事務の合理化、定型的事務処理の外部委託化など、最小の経費で最大の効果を上げられるよう、事務処理プロセスを見直していく。	職員育成の観点から、定型的事務もエントリージョブとして非常に重要であり、あまり強く「定型的事務の外部委託化」を打ち出さなくても良いのではないか。	【修正】 ＜業務改善の推進＞ ②　事務職員の「プロ職員」化を着実に図っていくとともに、業務全般の棚卸しを進め、契約事務や会計事務の合理化、定型的事務処理の外部委託化など、職員の人材育成にも配慮しつつ、最小の経費で最大の効果を上げられるよう、事務処理プロセスを見直していく。	14
財務運営	13	3 資産の管理運用に関する目標	＜剰余金の有効活用＞ ④　各年度の剰余金については、将来にわたって法人の安定的な事業展開に資するよう、可能な限り基金化し、その運用益を活用していく仕組みを整備する。	第二期中期計画期間中に毎事業年度にどれくらいの剰余金が生じるかまだ明確ではない中で、「可能な限り基金化し、」とまで言い切らなくても良いのではないか。	【原案のとおり】 未来人材育成基金等に可能な限り基金化し、学生や教職員の人材育成を推進することで法人の基盤を固め、安定的な事業展開を行うことを考えており、この表現は残したい。	15